

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。
Copyrighted materials of the authors.

「人類社会の進化史的基盤研究（4）」2017年度第3回（通算第8回）研究会

日時：2018年3月17日（土）13:00～19:30および3月18日（日）10:00～16:30

場所：AA研マルチメディアセミナー室（3階306室）

報告者：全員

内容：成果論集の刊行に向けたミーティングをおこなった。具体的には成果論集（『極限-人類社会の進化』）に執筆予定者（本共同研究課題メンバーの全員。ただし、当日欠席の床呂郁哉と竹ノ下祐二を除く）が順次、自身の執筆予定の内容（要旨）について報告し、全員で議論した。刊行予定の論集の目次は以下のとおりである。

『極限-人類社会の進化』（河合香吏編）

序章：生存・環境・極限-人類社会の進化史的基盤を求めて（河合香吏）

第一部 生きられる極限

第1章 移動する群れのゆくえ（足立薫）

第2章 変わり続ける環境世界とチンパンジーの生存（伊藤詞子）

第3章 現生霊長類の群れが生存できる極限の環境から初期人類の生息環境を探る
（中川尚史）

第4章 生きる世界の極-予感と予測：死者と精霊そして放射能を手がかりに
（西井涼子）

第5章 人口極限集団の存続戦略（船曳建夫）

第6章 「地域社会の消滅」という課題に向き合うコミュニケーション（北村光二）

第二部 作り出される極限（1）：社会環境と生存

第7章 チンパンジーの孤児の生存をめぐる-「母親の不在」は極限的な社会環境か
（中村美知夫）

第8章 新入りメスがはぐれるとき-チンパンジー社会における別れと再会-チンパンジー
社会で集団のメンバーであり続けること（花村俊吉）

第9章 社会の有限性としての孤独-野生チンパンジーが孤独になるとき（西江仁徳）

第10章 牧畜民の遊動再考-自然生態的および社会的な極限環境への対処（河合香吏）

第11章 宿痾としての極限状況（曾我亨）

第三部 作り出される極限（2）：記憶と想像/創造の力

第12章 記憶と期待の極限-生きる共同体にとっての過去と未来（内堀基光）

第13章 知の極限的実践のオントロジー-イヌイトの拡大家族集団の生成/維持のメカ
ニズムにみる社会性の進化史的基盤（大村敬一）

第14章 極限への接近と霊の思考-パプアニューギニアの成人式から考える（春日直樹）

第15章 脱走のトポロジー-アウシュビッツを中心に（田中雅一）

第16章 ハザード状況下における環境と生存に関する試論（床呂郁哉）

第四部 人類進化史に刻まれる極限

第17章 死亡率-ヒトの生活の持続性を決める生態と進化（デイビッド・スプレイグ）

第18章 虚構？の生への隘路（黒田末壽）

第19章 チンパンジーは雑草種か？-西アフリカの農業景観における人との共存
（山越言）

第20章 ヒト的な様態としての調理加工の共同-食が社会にひらかれるとき（杉山祐子）

第21章 人新世という極限（竹ノ下祐二）

第22章 異集団との遭遇と環境化の効果（寺嶋秀明）